

# 熊野古道 (滝尻～牛馬童子)

[※実施日—2024年01月23日(火)]



(ハイライトシーン)

※合計7名(弥生班)—楠部、中濱、岡本、八木、大野、茨木、有本

①(登山口)



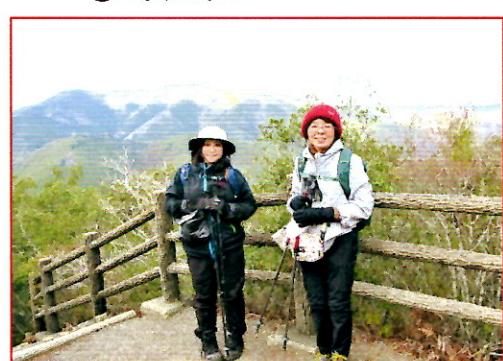
②(滝尻王子)



③(胎内くぐり)



⑤(展望台)



④(不寝王子)



⑥(高原熊野神社)



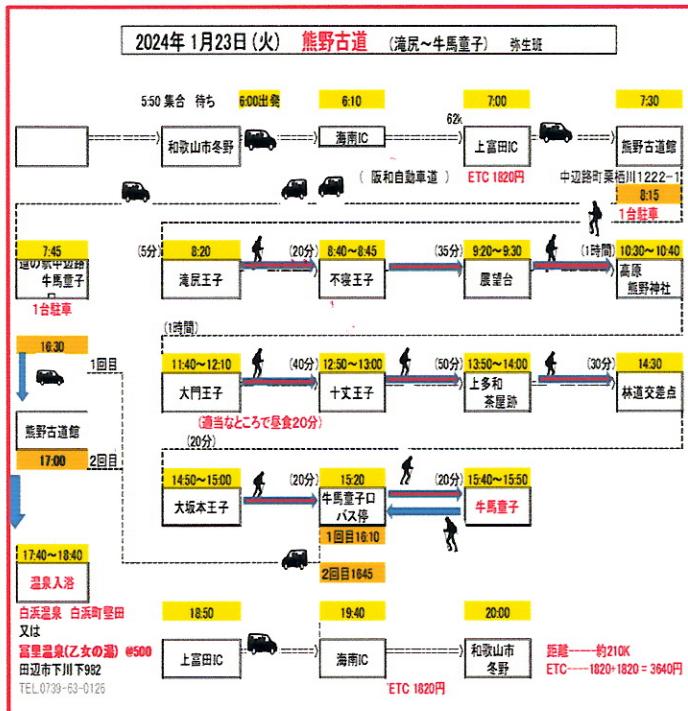
⑦(牛馬童子)



## 熊野古道（滝尻～牛馬童子）

※(山行日) ----- 2024年1月23日(火)

※(行程) [予定・結果]



### ※[はじめに]

- ・『熊野古道』とは、新宮市の熊野速玉大社と田辺市の熊野本宮大社、そして那智勝浦町の熊野那智大社、これら熊野三山を詣でる路で、古代から中世にかけて熊野三山の信仰が高まり、上皇・女院から庶民にいたるまで、多くの人々が熊野を参詣しました。
- ・「蟻の熊野詣」と例えられるほど、多くの人々が切れ目なく熊野に参詣したと伝えられています。
- ・熊野古道は、「伊勢路」「中辺路」「小辺路」「大峯奥駈道」「大辺路」「紀伊路」の6つのルートがある。



## 紀峰山の会（弥生班）

(メンバー) ----- 計 7名

楠部、中濱、岡本、八木、大野、茨木、有本

### ※[計画の目的]

- ・「中辺路ルート」の癒し体験と温泉を楽しむ。

- ・予定では9名参加で車2台で出発し、1台は帰路の乗車の為、先に牛馬童子口まで行き駐車しておき、1台はピストンで滝尻に戻り駐車し山行開始の予定であった。

- ・前日に都合で7名で車1台の出発となつたため、縦走ができないので、高原熊野神社で昼食後ピストン(折返し)の計画に変更した。

(写真1)



- ・北コミを6時に車1台で出発。  
8時15分、熊野古道館に到着。  
世界遺産熊野参詣道中辺路登山口から出発。

(写真2)



(写真3)

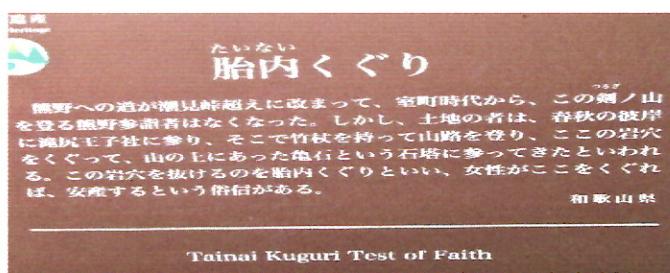
(滝尻王子---②)



・先ずは全員で山行の安全祈願。

(写真4)

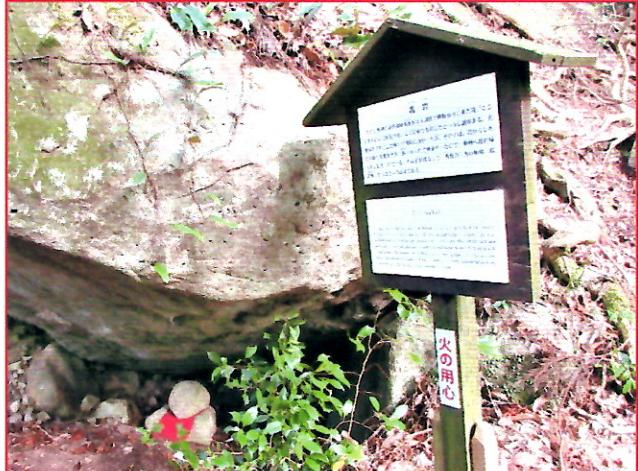
(胎内くぐり)



・看板には、岩穴を抜けるを胎内くぐりといい、女性がここをくぐれば安産するという俗信があると書かれている。  
♀——が、ほとんど「リング貞子状態」で岩穴から出没——♀

(写真5)

(乳岩)



・奥州の豪族「藤原秀衝」が夫人同伴で熊野参詣に来たとき、ここで夫人が急に産気づき、この岩屋で出産したという伝説があります。夫妻は赤子をこの岩穴に残し、熊野に向かつたがその子は、岩から滴り落ちる乳を飲み、狼に守られて無事だったので、奥州へ連れ帰ったと伝えられている。 その子が成長して「和泉三郎忠衝」になったという話がある。と看板に書かれている。

(写真6)

(不寝王子)



・9時過ぎに到着。  
・鎌倉時代に熊野参詣の沿道祠社は「熊野九十九王子」と呼ばれたが、中世の記録には、この不寝王子の名は登場しない。王子の名が載せられているのは、江戸時代の「紀南郷導記」で、ネジあるいはネズ王子と呼ばれる小社の跡があると記され、「不寝」の文字があてられている。  
江戸時代後期の「紀伊続風土記」では、「不寝王子廃墟」となっており、滝尻王子社に合祀されていると記されている。  
と看板に書かれている。

(写真7)

(展望台)



(写真10)

(熊野古道館と滝尻の御朱印)



- ・高原霧の里休憩所で昼食後、ピストンで滝尻に戻り、熊野古道館で御朱印をいただく。

(写真8)

(夫婦地蔵)



(写真11)

(牛馬童子)



- ・車で滝尻から牛馬童子口に移動。  
20分の山行で牛馬童子に到着。
- ・この後、白浜カタタの湯で入浴後帰路につく。

### [最後に]

- 急に参加人数が変更となったが、メンバーの心遣いや配慮もあり、車2台から1台へ変更しての出発となった。
- 寒波到来で寒く感じる山行で速度も遅くなつたが、臨機応変の行動で最終目的地である牛馬童子まで到着できた。
- 厳しい環境下での山行であったが、難行苦行の道のりである「蟻の熊野詣」と例えられるほど、多くの人々が熊野に参詣した昔を偲ぶことができました。
- 帰路は温泉につかり、癒されました。

(写真9)

(高原熊野神社)



- ・1402年に熊野本宮から勧請(かんじょう)され、江戸時代には熊野權現という社名であったが、明治初めに熊野神社となり、村社となつた。
- ・本殿は室町時代の形式を残している熊野参詣道沿いの最古の建物として和歌山県指定の有形文化財に指定されている。
- ・諸説あるが、高原王子と呼ばれることがある。